



だっこするよ

令和2年12月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115-0053 北区赤羽台1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子

「火」の体験から学ぶもの 命を耕す体験へ

小春日和のような暖かさと寒さが行き来しながら冬がやってきました。すっかり筭になった樺や桜の木々たち、公園を歩くと落ち葉がふかふかとお布団のように心地よいです。落ち葉たちが小さな虫たちを守り、その上をこどもたちが遊ぶ、四季のある生活の豊かさをみんなで味わっていきたいと思います。

10月、11月と4、5歳組は赤羽自然観察公園にて「火」と向き合う活動をしました。今年もファイヤー先生初め、保護者ボランティアの皆さんが応援団として協力していただき、お陰様で、怪我無く、焼きたての美味しいお芋をみんなでおぼりました。IHの台所では、「火」を見ることもなく、私たちは、どんどん自然を遠ざけて暮らしています。便利ですが、実は身体で生活の加減を学ぶ機会を無くしています。食べ物を収穫して自分達で焼く…実体験をしたいと3年前に始めました。ファイヤー先生に出会ったことで「火」を学びにつなげることが出来、「火」の世界の奥深さを教えていただきました。五感を使う体験は、視覚や聴覚だけの活動では記憶されない脳に生涯残る体験として刻まれるそうです。直接触れる、味わう、臭うが大切なんですね。柔らかな脳に今こそ肌で感じる原体験ですね。5歳児は、雨で延期になった一週間、一日一日祈るように待ちました。「園長、園長、2回目が雨ならどうするの?」と聞いてきたこどもたち、その目は「僕たちは絶対やりたいんだ」という意欲が溢れていました。机上の知識でなく、こどもたちは、火を燃やし、枝や薪をくべ、団扇で扇ぎ、ファイヤー先生の声を聞きながら実践しました。そう熱さも煙の苦しさも全身で感じたのです。「火起こし」の体験がもたらすものは、感覚の喜びであり、面白さ、不思議さだと思います。燃える音や炎の色合い、材料や道具の扱い、枝や薪の必要な量、資源を大切にすること、協力すること、みんなで食べると美味しいこと、私たちの想像以上の学びの情報が毛穴から脳へ、鼻から脳へ送られたでしょう。私は、自然に戻す体験は、こども自身が自分で命を耕やすことかなと感じます。しなやかに耕す。自分の命を耕しながら生きるって面白いぞと実感を積んでいくことが幼児教育だと感じます。これからのAI時代、共生してくのは、生きる喜び、面白いことを見つけられる子、不思議だと思ったことを自ら探求していくそんな人間臭い子です。その臭さはAIには作れないと思うのです。豊かな臭さ、個性を育みたいものです。「マッチを擦って火をつけたとき、こどもの表情が一瞬で変わった」と一人のママが話してくれました。感動は最高の学び(臭さ)への入り口ですね。キャンプネームで呼び合ったボランティアの皆さん、本当に全員のパパやママになって、全力で見守り、走って遊び、素晴らしかったです。大人チームのミッションも大成功でした!!

12月「大きくなったねの会」に向けて取り組んでいます。冬の感染症が流行する時期になり、園でも加湿器の購入、衛生消毒の徹底、換気、体調確認と感染防止に努めていますが、連日、都内の感染者は急増しています。いつ誰が罹っても不思議ではありません。園児、職員から新型コロナウイルス感染症の陽性者が出た場合は、北区保育課、北区保健所と相談の上、状況によっては休園(会も中止となります)となりますのでご了承ください。その際は、北区緊急メール配信でお伝えします。送迎時の門扉でのアルコール消毒、体温確認、体調確認と同居されているご家族が濃厚接触者に認定された場合、PCR検査を受ける場合には必ず園までご連絡ください。結果が陰性と分るまではお子さんの登園はお控えください。

コロナ禍ではありますが、年末を迎え、こどもたちにとって嬉しいイベントが続きます。ご家族でゆっくりとお過ごしください。そして、こどもたちは、家族の一員、お正月を迎える準備や大掃除なども大人の隣でさせてあげてください。きっと得意です。全ての人々がWell-beingな新年でありますように。写真は「焼くぞ」です